

「食品に関するリスクコミュニケーション（大阪）」  
 ～日本における牛海綿状脳症（BSE）対策の検証に関する意見交換会～  
 アンケートの集計結果

開催日：2004年9月18日（土）

参加者数：107名 回答数：65名（回答率60.7%）

問1 ご自身について、ご回答ください。

1) 消費者	29	44.6%
2) 農林水産業	0	0.0%
3) 食品関連事業者	11	16.9%
4) 食品関連団体	4	6.2%
5) 研究機関	0	0.0%
6) 行政関係	17	26.1%
7) マスコミ関係	0	0.0%
8) その他	4	6.2%
・ 分析機関（1）		
・ 教育機関（1）		
・ 大学非常勤講師（1）		
・ 大阪あべの辻調理師専門学校講師、食品安全モニター（1）		

問2 本日の意見交換会は、何からお知りになりましたか。

1) 食品安全委員会のホームページ	20	30.8%
2) 食品安全委員会からのご案内資料	16	24.6%
3) 関係団体からのご案内資料	16	24.6%
4) 知人からの紹介	10	15.4%
5) その他	5	7.7%
・ メルマガ（1）		
・ internet（1）		
・ 近畿農政局大阪事務所（1）		
・ 大阪府食の安全・安心府民会議、大阪農政事務所（1）		
・ 行政（農政事務所からの案内）（1）		

問3 今回の意見交換会全般について、どのようにお考えですか。

1) 評価する	21	32.3%
2) やや評価する	33	50.8%
3) あまり評価しない	5	7.7%
4) 評価しない	4	6.1%
5) 無回答	2	3.1%

評価理由・

- ・ より多くの方が意見を言えるように時間の厳守を。テーマをしぼると意見が言いにくいのでは？結果的にバラバラだった。

- ・消費者の素朴な疑問・不安をしっかりと聞いてほしい（中間とりまとめの中味だけでなく）、そうすることがより理解が深まると思う。
- ・安全委員会の生の声を聞くことができた（報道ではわからない部分について）。
- ・アメリカのリスク管理についても評価して行って欲しい。
- ・交換会の場を設けられたことが一番大切だと思う（講演会、交換会の場はとても重要）。いろいろな方が参加したら良いと思う（消費生活団体の方がいつも多い）
- ・結論が出てしまっていて、意見を取り上げて考える姿勢がないように思えた。BSEについては勉強になりました。
- ・業界（関連事業者）からの意見がなかった。
- ・どうしてもBSE問題では消費者団体による見直し反対論の発言が多くなってしまふ。事業関連者は事業利益の為のようにとらえられやすい為発言しにくいものです。もっとも重要なことは、科学的・論理的考え方を国民に理解させること。主張の場ではないと思う。委員会はそれを強くアピールして欲しい。
- ・過去には、消費者とこのようにリスクコミュニケーションは開催がなかったし、少なかったが、このように開催されてうれしい。専門的、役所的開示でなく、新しいリスクコミュニケーションをとる新しい民主主義のわく組みでうれしい進歩である。
- ・司会に問題あり。都合の悪い部分はにげてしまっている。
- ・もっと“意見交換会をする”ということを一一般の人にわかるように広報して欲しい。
- ・中間報告書として、科学的データによりよくまとまっている。今後、さらに掘り下げた評価と検証を期待する。
- ・30ヶ月齢についての説明が不十分。
- ・第三者（マスコミ等）を介しての情報と本日の話とは、若干ニュアンスの違う部分がありました。この点で、リスクコミュニケーションが評価できる点ではあります。
- ・広く国民とのリスクコミュニケーションという点では不十分。内容は専門的であるし、参加者も一般の消費者とは思えない。
- ・金子さんと寺田さん、意味的に、同じことを言っていない。
- ・一定のまとめとしては評価しても良いが。一般公募も必要だが、内容をもっと深められる意見交換会が必要だ。
- ・非常にわかりやすくVCDについて、またプリオンの説明をしていただき、わかりやすかった。
- ・消費者の意見は重要であるが、時間的に考えて意見発表などもう少しまとめればと思います（おぼ様の）
- ・やらないよりやる方が良い。
- ・1、金子先生の講演および意見交換時のコメントは大変良く分かり、消費者のことも良く理解した発言であった。非常に評価できる。2、司会者がリスク評価についての意見を強引に傍聴者から引き出そうとしていることが気に入らなかった。報告書を書かなくてはいけないのか知りませんが、誰のための中間報告、意見交換会なのか、わきまえてほしい！！リスク評価について（数字について）意見がなかったということは、リスク評価をしても何も意味がないのでは？という国民の意見だと思って下さい。評価して何が変わる？
- ・もっと食品安全委員会にがんばってほしいと思います。その点で、リスク管理機関に対して、踏み込んだものであってほしいというのが理由です。
- ・直接話を聞くことの重要性。政治に利用されないで！
- ・専門調査会の金子氏は真しにおこたえいただいたと思うが、食品安全委員会として、マスコミ報道に対する責任について真剣にうけとめていない。

- ・テーマ設定を絞りすぎて、はじめ質問がしにくく感じました。論議の時間はもう少しとってほしいと思います。
- ・安全委員会でまとめても、政治決着で別の方向にゆがめられないか。米国輸入解禁について。
- ・20ヶ月以下を全頭検査から外すという政府の方針は変わっておらず、一般市民のガス抜きのための会合であるようにしか思われない。非常に失望した。
- ・大阪にまで説明にこられてご苦労様です。責任のある立場の方が直接お答えになり有意義です。
- ・化学的な分析にもとづいて、リスク評価をしたものを公開していただいた上で、一般消費者の意見を考慮して下さる姿勢はありがたい。
- ・マスコミにてひとりあるきする中のことをきちんと申し出するという態勢をされるという答えを。
- ・金子先生の説明はよくわかりました。よくわからない説明をする人もいる。
- ・募集の方法がせまい範囲で知る人が少ない。事業者、生産者からの意見がなかった。
- ・意見を交換できる場があるのはよいことだが、この場で出た意見を今後どう生かすかが重要だ。
- ・沢山の意見を聴いて頂いた点が良かった。
- ・くわしく内容を知ることが出来た（食品安全委員会の）。
- ・会場との意見交換がよくなされていた。
- ・金子先生の正直な対応に安心できたから。
- ・少し内容が幅広すぎたため、話を聞きながら資料をめくる動作に自身バタバタした。
- ・屠場におけるSRM除去の徹底についての厚労省の説明は、現場を知らない人の声。現場が受け入れられる施策を！

問4 意見交換会に出席されてどのような感想を持たれましたか。あてはまるものはすべてご回答ください。

1)	広く関係者の意見を聴き、意見交換する行政の姿勢がみられた	31	47.7%
2)	情報を公開していこうとする行政の姿勢がみられた	32	49.2%
3)	対行政だけでなく、立場の異なる関係者間での意見交換が大切と感じた	16	24.6%
4)	意見交換としては、不十分だった（時間的・内容的）	13	20.0%
	時間的（2）、内容的（4）		
5)	行政の一方的な説明に終わって、運営に不満を感じた	3	4.6%
6)	BSE対策について理解が深まった	25	38.5%
7)	その他	9	13.8%

- ・消費者がもっと多くの意見を出せるようにすべき（小さなことから大きなことまで）。説明が長い。テーマごとの発言を求められたので、どこで手を挙げていいか分からなかった。
- ・委員会の方は、20ヶ月という結論が一人歩きして行政に利用される責任を自覚してほしいと思います。
- ・消費者の勉強不足。
- ・一応実施した、実績を残しただけ。
- ・ファイナルアンサーだったなという感じです。9/21の首脳会談待ちですね。むなしいけれど...
- ・安全委員会はもっときりっとして下さい。リスク評価のみにとどまらず、国民の安全までみとどけて下さい。中間報告とアメリカ牛輸入解禁と関係ないといわれても、マスコミからだけのニュースを得ている一般国民は、そのように理解すると思う。

- ・ スライドの方を見て話をしているのは、消費者に対する説明と思えない。学会説明のよう。前を見て（下の紙でもいいが）話してほしい（態度は誠意のあるほうだが）。小数点以下だが、人への感染への可能性の計算は、1999年生まれの牛が出たので変わるのでは。また、1996、3～4の牛はあまりと畜場へまわっていない。この実態は、肉骨粉工場でわかる。免除率はあがる。まして、1999年の牛で初発だと、もっとふえる。
- ・ いつも急です。
- ・ この意見交換会でだされた意見なり要望がどう食品安全委員会に反映するのか。まったく反映されていないのではないか。

問5 BSE問題について、どのようなことに関心がありますか？

- ・ BSEの原因究明をお願いしたい。感染後の対処方法がないことが不安。また原因がはっきりしないことも不安。BSEに汚染された肉骨粉が、どの程度日本中にあるのか？本当に肉は大丈夫なのよね～。それより医療感染の方が恐いかもしれない。
- ・ 全頭検査で日本の牛肉は安心できていると思っています。完全じゃないかもしれないが、これが20ヶ月齢以上の検査になるのではと不安です。SRMの完全徹底ができるのかも不安材料です。
- ・ 全頭検査の見直しについて、20ヶ月の線引きが適切かどうか。省令の改正について。
- ・ 全頭検査が中止されるのは不安なので、しかも米国の管理不十分の牛肉が輸入されるのも不安です。
- ・ 米国産牛肉の件。
- ・ 米国ビーフの解禁時期。
- ・ 検査に限界あるから、で全頭検査を変更するのはおかしい！
- ・ 20ヶ月齢牛は、10%であることがわかりました。10%の事ぐらいで全頭検査をしないのは、米産牛の再輸入が見え見えではないか。
- ・ 牛から人への感染（科学的根拠）。プリオン異常タンパク（タンパク質の変性）。
- ・ 牛から人への感染。
- ・ 全頭検査見直しの背景と、アメリカ輸入牛肉との関連と政治的背景。
- ・ 全頭検査を見直せば輸入再開と報道しています。米国のBSE対策に関わるリスク評価が、日本の食品安全委員会で慎重に行われなければ、米国の牛の輸入再開は実施できない。
- ・ 専門性が必要。分かりにくい部分が多い為、正確な情報が消費者の判断の基準になるものと思われる。この点で、マスコミ等への情報発信では、適切な内容が提供されるべきだと考える。いたずらに混乱をまねかない。まして、輸入牛肉問題がからむ点で、慎重であるべきだと思う。
- ・ 食品安全対策が利害関係（業界・党派等）で決められていくことに最も不信感を持っている。ここまで無策にしてきた責任者が明らかにされていない。
- ・ トレーサビリティのこと。また、安心して牛肉を食べたいと思う。アメリカも輸出したければ日本並みのトレーサビリティを確立するべきだと思う。
- ・ BSE...異状プリオンを持った牛の肉をもしも食した場合“量的”にどの位の量と頻度で数年後の発症するのか知りたい。ホルスタインは乳牛...牛乳は何故OKなのか。
- ・ 食肉に、牛の履歴をつけてほしい。危ない時期（発生の多い時期）の牛の牛肉への表示（赤丸表示）。
- ・ 食品安全委員会の先生方への謝金（高額すぎないかどうか？公表してほしい）。
- ・ 検出限界（分析方法含む）。今後の行政の方針。
- ・ 国内での対応は消費者の安心を守る点でよいと思う。輸入についてのリスク管理を、しっかりしたリスク評価をしていただきたい。今の日本との違いがありすぎると、この間のコミュニケーションでの情報でききました。

- ・アメリカ産牛肉の輸入解禁（アメリカ産牛肉の安全性をどう確保するつもりか？）
- ・SRM除去の徹底が今後最も重要。予算措置も必要だと思います。検査と、二重の安全弁を設けていく事。
- ・20月齢以下の検査解禁について。
- ・米国肉牛における肉骨粉問題。牛の肉骨粉がニワトリやブタの飼料として売られており、交叉汚染のriskが非常に大きいこと。
- ・アメリカ牛肉の輸入解禁の動き。
- ・牛の危険特定部位について。どの部位まで危険とみるか。 国によって異なる。
- ・全頭検査について。
- ・検査法。検査対象月齢。
- ・ヒトに対する感染性・安全性。関連業者に対する啓蒙・教育。
- ・不確定部分があり、検出限界もある中での対策。偽装や輸入肉の対応。
- ・BSEが把握できていないことが、我々にどのように影響するのか関心がある。
- ・やはり一般の人はアメリカ輸入のことに関心があるみたいで、勘違いのまま参加したいといっています。
- ・マスコミ対応。
- ・検査法について。
- ・検査、プリオン解明。今後米輸入肉に与える影響。
- ・情報公開。
- ・発生国（米国）からの輸入問題。全頭検査が続くか、検査月齢が定められるか。CJDとの因果関係。SRMに全腸が指定されるか。と畜場の改善について。
- ・検査について。牛の生体から採取した組織・血液による検査を早急に開発して頂きたい。
- ・アメリカは全頭検査は非科学的であると言っていること。
- ・会議の中でもあったマスコミの報道について。20ヶ月問題。私は今のまま、やはり全頭検査すべきだと考えています。
- ・輸入牛に関してのBSE対策は？少し心配です。中間まとめが、リスク管理（農水）でどう進められるのか心配です。より安全の方向性でのまとめがあればと思いました（20ヶ月、21ヶ月の判断など）。100%SRM除去のお願い。
- ・BSEにとどまらず、私たちの周囲ではとりインフルエンザ、コイウィルス、こうていちく病...とどんどん出て来ます。より早い情報の早い発信をお願いします。
- ・中間報告を受け、厚労省はこれまでの管理対策を見直すのか。
- ・牛から人への感染リスクの具体的な検証。BSE検査とSRM除去により感染リスクがほとんどないことがわかっているのなら、米国牛も輸入可能にしていくようなコミュニケーション方法。
- ・SRM除去はと畜場で行われていますが、プリオン危険率からみてせき柱が20%程度あると思う。せき柱は牛肉販売業者で除去している。ただ、牛肉（悪玉プリオン）を食べなければOKとはなっていない。流通している牛はBSE検査の陰性のもので心配ないと思うが今のところ0でない。と畜場の職員、食肉店の職員さんは大丈夫が少し心配（マニュアルにより除去されているが）。
- ・USEの解禁がいつになるのか？早くしてほしい。
- ・BSE（牛） v CJD（人）への危険性について。その為に今なにをなすべきなのか。
- ・対象月齢についても、各論はリスク対費用の観点で行って欲しい。30ヶ月以上にすればかなりのコストダウン（節税）になり、しかも、今までの感染牛例は高齢牛なので問題ないと思う。非定型的BSE（21、23ヶ月）の例は特例であり、それらに関してはSRM除去により公衆衛生は守られていると考えても良いと思う。

- ・ 検査方法（精度を高めた）の向上。
- ・ BSE牛の牛血液中のプリオン存在が全くないという事でない為、特定危険部位以外の筋肉にもプリオンは存在しているのだから、知らずに牛肉を摂取しており、リスクは少ないがDNAに蓄積していかないか？
- ・ 日本ではよく分かったが、海外ではどうか？安全と安心は別。「安全」に関してはなるほど思ったが、「安心」についてはなかなか「合点」がいかない…。アメリカ牛の輸入解禁と消費者はばっちくなりすぎている。
- ・ 政府、行政、業界、団体の不正行為も風評リスク発生の原況と思われる。
- ・ 中間とりまとめP20 5～6行の表現が意味不明である。～「確認することができなかったことは、今後のわが国のBSE対策を検討する上で十分考慮に入れるべき事実である」とは、誰に向けて発信した文書なのか。全頭検査廃止の呼び水になっていることは事実。その役割を果たすことと、文書とは整合性をもつのでしょうか。
- ・ 生産者への過度の負担。

附問5 - 1 上記の関心点について、今回の意見交換会は役に立ちましたか？

1) 大変役に立った	7	10.8%
2) 役に立った	32	49.2%
3) あまり役に立たなかった	9	13.8%
4) 役に立たない	4	6.2%
5) 無回答	13	20.0%

問6 今回の意見交換会の進め方についてお伺いします。

1) 満足	7	10.8%
2) やや満足	32	49.2%
3) やや不満	9	13.9%
4) 不満	7	10.8%
5) 無回答	10	15.3%

また、会の運営等で何かお気づきの点がございましたらご記入ください。

- ・ リスクコミュニケーションってむずかしいねー。どうしたらもっとわかりあえるんだろう。今日来ている人は、かなり予備知識を持っている人たちばかり。ほとんどの国民は、異常に恐がっている人と、全く関心のない人とに分かれている。基礎知識がないところから説明をすることは大変だと思いますが、今後ともわかりやすく伝える努力をお願いします。
- ・ テーマごとの発言は主婦にはハードルが高い。
- ・ 運営というよりも、一般参加者の質問レベルを高めないといけないと感じる。運営はまあまあだと思う。
- ・ 現状問題の本質をにげている。
- ・ コーディネートの仕方が良くなかった。
- ・ 進め方(司会)、2～3の意見を発言した後、担当の方々へ回答して頂くようにする。多くの消費者の声を聞くなら、1問1答では意見が述べにくい。もう少しコーディネーター方、うまくまわしてほしい。前回の意見交換会はわかりやすかったのに。

- ・ コーディネーターの話されていることが不明りょうで聞き取れない部分が多く、はっきり話される事は伝えきってほしかった。
- ・ 出された意見がいかにか反映されている(いく)のか、回答しきれないこと。含め、一般に広く周知する必要がある。
- ・ 国内において...検証し、とりまとめた報告は出されたかも知れませんが、食品安全委員会の役割の中に、輸入肉については(政治的な為)我々委員会は介入しないーと表明されたように感じた。何の為の安全委員会か。これでは委員会そのものに、信頼の評価できない。
- ・ 質疑応答の時、テーマとちぐはぐな質問が多く目立ち気になった。皆が最も気になっている部分、検査月齢の基準、アメリカ牛肉の輸入解禁問題を重点的に話し合った方が良かったのではないかと思う。
- ・ 3部構成や質問の仕方等は、紙にまとめておいて下さい。(チンの音は機械的に2分できらず、様子を見て) それより長く話しているからまあいいかな。
- ・ 時間オーバーの人はやはりルールにのっとるべきでしょうね。けれど、ちゃんと答えて下さる受け手の態度も良かったと思います。
- ・ 問3で書いた通り、とにかく司会者が×！！パネリストの中に壇上での態度が非常に悪い人がいる。発言しないのならないほうがまし。大変不愉快！！腕を組んでふんぞり返っているパネラーがどこにいますか？
- ・ 当日の運営として、急に分かつをいわれ、整理できずこまった。
- ・ こういう意見交換会が言い訳づくりに利用されている気がする。
- ・ 一般消費者の意見を聞け！日本の主権者は米国大統領なのか？？米国牛輸入問題の意見交換会を夜、週末に開いてほしい。平日昼間では通常のサラリーマンは出席できない。
- ・ 意見としては、消費者の不安な点が多い。牛20ヶ月以下についての安全保障がない。米国牛輸入の政治的背景に囚われないでほしい。
- ・ 講演はもう少し配布資料とスライドの関係を詳しく説明して欲しかった。
- ・ 長いポイントを得ない質問や意見を避けるため、事前に申込時点で質問を書いてもらって、多かった質問等に答えていったらよいのではないかと思った(時間がきたら鐘を鳴らしてもらっても、話されている方も多かったのだ)。
- ・ 司行役の人の話がききとりにくい。話し言葉の語尾が聞き取りにくい。アメリカ牛輸入再開とは別のことと言われるが、そうは思えない。20ヶ月令は検出しにくい。20ヶ月令と検査を限った場合、アメリカ牛の正確な年令把握は困難です。全頭検査を廃止することは偽装のもと。
- ・ 質問の時間が短い。
- ・ 出席者はある意味プロ、参加者は素人なので、質問が下手な場合が多いので、コーディネーターが少し引き出すように努めるか質問時間を長くして欲しかった。
- ・ 案内で地図をつけてほしい(道に迷い遅刻致しました)
- ・ やはりもっと周知されると良いと思います。
- ・ やはり、答えは用意されていたものばかりでした。
- ・ 質問意見交換の時間が前回(8/26)よりも長くともってもらっていたのでよかった。ただし、最初の説明の時スクリーンと資料がちがいとまどった。
- ・ 主婦の片寄った意見が多すぎ。主婦の不満が意見交換会ではない、不満大会だ。
- ・ 実績作りの為のコミュニケーションはするべきではないと思います。
- ・ 見直し反対の意見が多いのは、消費者団体が組織的に参加し、全国の交換会で組織方針

を述べている為。科学的、論理的には見直しは妥当なものであることを認めようとはしない姿勢なので、いくら専門調査会が説明しても無駄なのかも知れない。科学的、論理的思考方法のレベルが違うので、科学者の方々には申し訳なく、同情申し上げます。

- ・ 会場から発言もあったが、米国牛輸入とリンクしたものととして「中間とりまとめ」が活用されることのないようにしてください。
- ・ 十分に時間がとれて良かった。ごく一般の消費者にどう情報をわかりやすく伝えていくか... (消費者側の学習も必要だが...)

問7 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んでください。

1) 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと (原則公開されていること)	32	49.2%
2) 食品安全委員会ホームページ (委員会や意見交換会等の配布資料及び議事録、意見募集、リスク評価等)	43	84.0%
3) 食の安全ダイヤル	19	66.2%
4) 食品安全モニター	27	41.5%
5) 食品の安全性に関する政府広報	27	41.5%
6) その他	2	3.1%

- ・ 全て知っているが、一般的に市民が身近に活用できるようになっていないと思う。
- ・ 特にない。

附問7-1 上記で選択したものについて、御意見や感想がございましたらご記入ください。

- ・ もっと身近なところでも開催してほしい。
- ・ HP上では情報収集はしやすい。しかし、ツールはたくさんある方が良い。
- ・ 最新の情報提供。
- ・ 今回初めて参加申し込み方法をWebで調べてFAXで行ったが、わかりやすく大変良かった。行き届いていると感じた。
- ・ BSEだけでなく、食の安全は純粋に安全ということだけでなく、“利益”がからんでくるから大変だなと思う。
- ・ 意見交換会後のアンケート結果を公表して欲しい。見直し賛成意見も多いのではないか。このままでは消費者団体による意見が国民全体の意見に聞こえてしまい、一方的である。
- ・ 全体的に科学者、委員の方は誠実な感じはしたが、より積極的に不明な点も含めて、発表をしていて下さい。冷房が効きすぎ。エネルギー使用のムダ。こういう点への最初から配慮をしてほしい。薬用のゼラチンの安全性は？スープの安全性は？
- ・ 電子媒体で利用しやすいので、今後も充実したものを期待します。
- ・ 広報の工夫を (わかりやすさ、タイミング、量)。
- ・ おわびがありましたけど、資料 (金子先生)のスライドはちゃんとしたものがあると良かったです。
- ・ 中間とりまとめの位置付けをもっとはっきりと国民に周知すべきであった。プレス報道が行きすぎであると思うのであれば、委員会は国民に安心を与えるための対応を即時にとるべきである。
- ・ 会場からの意見もありましたが、食品安全委員会の名称には不満です。安全委員会が発表したことはすべて安全とイメージしやすい。食品検討委員会とすべきでは。
- ・ 一般消費者や生産者も含めて。



- ・食品安全モニター会議をもっと定期的にひんぱんに（1ヶ月1回程度）行ってほしい。モニター同士の研究会のような会があったらよい。
- ・問6に回答したが、ごく普通の消費者への「伝え方」（わかりやすい言葉での表現を使用して）に工夫が必要。特に「食の安全」の知識がない人でも、BSE等とても関心持っている。今だ「牛肉はどうもね…」と言われている人多し。